

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201314
法人名	有限会社 ウエルマツナガ
事業所名	グループホーム ウエル城北
所在地 (電話番号)	静岡市葵区城北65 (電 話) 054-249-0710
評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(20年 1月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人		
職員数	16人	常勤 8 人	非常勤 8人	常勤換算 12.77人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	2 階建の	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷 金	有(123,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	450 円	おやつ 円

(4)利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低 64 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科森田クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、総合病院や教育機関、金融機関や商店が近くにあり、暮らしやすい環境にある。建物外観は柔らかな色彩で周囲の景観にとけ込んでいて、玄関回りも入り易い。利用者の穏やかな表情、動きに職員一人ひとりが理念に添った介護サービスを意識し、一生懸命に取り組んでいる様子が汲みとれる。あらゆる機会を通しての地域交流を考え、経営母体の知名度も活かしながら手芸教室を催し、楽しみの場所を提供している。地域に密着している施設であり、更なる発展を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である地域の方々への理解については、地域の方が集まり易いイベントを企画して積極的に施設の開放《利用者のプライバシーに配慮した》を行っており、努力の跡が伺える。チームワーク、ケースカンファレンスや研修、会議、情報等方向性を同じにするように取り組み、職員一人ひとりが自覚している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 利用者の日常生活での自立支援はケアプランを参考にして、「していること」と「出来ること」を把握し定期的に見直しを行っている。ケアプラン作成時は、利用者、家族と一緒に考え、『ホーム内での役割や本人が自らできること』が増えていくように全職員でカンファレンス、ミーティングで情報の共有化を図り、介護を実践している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域包括支援センターとの定期的な会議を開催している。また、地域密着を目指し、施設の広報や地元の方とのイベントを積極的に展開し交流を図っている。更なる保険者との連携が望まれる。すでに介護相談員の受け入れについてホーム内で検討しているので、さらに具体的な調整段階へ進むことを期待したい。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を開催し、意見を言いやすい場を積極的に作っている。利用者の状態、状況や暮らしを保つ上で、有効なホーム内での過ごし方について、家族が面会した際や電話、広報紙、手紙、写真等で相談、連絡を行っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設の隣で畑を借りて利用者と一緒に作物を栽培することで、同じ趣味をもつ地域の方と交流ができています。また、前回に指摘を受けた散歩など積極的に行い地域に出かける機会を増やしている。地元在住の職員からの情報を元に地域との連携を保つ努力や地元の医療機関と日頃より連絡を取り合い連携に努めている。災害等の緊急時も踏まえ地域の社会資源として理解を図るため、地元住民を積極的に施設に招き、イベント等を開催している。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が安定した穏やかな生活を過ごせるような『あなたらしく、笑顔いっぱい』を理念としている。地域との関係性は表現されてはいないが、地域の事情や関係性を踏まえて地元との密着にも力を入れながら、利用者個人のその人らしさを大切に職員全体での取り組みについて、支援の中で活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員、利用者出入口の見やすい位置に理念を掲示している。利用者の個を大切に一日一日を気持ちよく過ごす具体的な支援について、管理者、職員が意識しながら話し合い、利用者の笑顔を引き出す介護を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり、町内会へ入会し、地域との交流に努めている。市民農園の活動を通して地元の方との交流を大切に2ヶ月に1回地域活動(夏祭り、編み物教室、防災訓練等)を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や活用について管理者は職員によく説明を行い、自己評価はホーム全体の職員で行い、それを踏まえ、支援の環境を見直し、常にケアプランに反映している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2ヶ月に1回)に運営推進会議を開催し、地域包括支援センターと地域の介護ニーズ、事業所の実情やケアサービスの取り組み等について報告や相談を行い、連携に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部に目を向け、地域代表の方を交えた取り組み以外に出来るものは何かを考えている。(認知症の理解等)家族会や運営推進会議(家族、市役所、地域包括支援センター、民生委員等)で取り上げられた検討事項や外部評価結果を報告し一つひとつ積み上げていくようにしている。	○	ホーム内で受け入れを検討している介護相談員についての導入が期待できる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が面会した際、説明を随時行っている。また、家族との信頼関係を築くために、1ヶ月に1回、手紙や写真を同封し、状況報告を欠かさず行っている。また、家族会を開き家族の要望等を積極的に受け止める場や意見を踏まえたケアを実践している。また、金銭管理についても明確に報告や相談を実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は、家族会や運営会議等で反映している他、ホーム内の職員で話し合い、共有し意見を反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との信頼関係を築くため、なじみの関係が確保、継続できるようにしたいと考えている。人手不足の理由から異動が現実にあるが、利用者になさるだけ影響がないように気持ちの上で留意し、引継ぎや職員間の連携を強化している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のキャリア支援(資格取得等)、スキル(介護技術、ケアプラン作成等)が向上できるように、研修の費用の助成を積極的に行っている。管理者自らが率先しての資格取得や研修会への参加が多い。今後も継続していく予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流と共に周辺各事業所との交流を行い、取り組んでいる。また、関連の事業所等と学習会や交流を持つことによりサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験的に利用できるシステムがある。また、家族の思いや不安、利用者が希望する暮らしについて大切に、面接や申し込み時に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の流れの空間が家族と共に過ごすような雰囲気のもとにゆっくりと時間が過ぎている。利用者ごとの性格や状態に応じホーム内での役割について押し付けにならないようにしている。また、利用者同士のバランスにも配慮して支援しあう関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の出来事を会議や申し送りノート及び申し送り等で、一人ひとりの把握に努めている。また本人が普段何気なく話す会話や、家族からも情報を得て、利用者の個別把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護リーダーが中心となり、チームケアの重要性について理解に努めている。チームワークを大切にケアプランを作成している。本人がどうしたいのか主訴を明確にし、それをどのように自立支援につなげればよいかについて、チームでのケアを大切に考え、職員間で連携に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員、管理者が情報を確認及び共有し、利用者や家族の要望を取り入れつつ、様々な状況に対応する個別性のあるプランを計画・実行し、モニタリングしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を踏まえ、利用者が入院した場合の病院での対応について、家族が事情があり対応が困難な場合は、有料にて対応し、家族からも信頼を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携について、状況に応じて往診してもらえるように日頃から付き合いや調整を図っている。また、利用者の状態を知ってもらうため、家族と協力しながら通院介助を行い、主治医と連携し利用者の容体について把握している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員間でターミナルケアについて、話し合っている。また、利用者や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとって医療機関と連絡、連携を図れる体制づくりの必要を踏まえ、準備を行っている。	○	利用者の重度化は、増加傾向のため、利用者や家族から終末期の看取りについて、事前確認書を交わす等の取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が落ち着きがなく不穏な場合でも、ゆとりを持って対応するように配慮している。以前の職業や得意とする部分の促し等、常に配慮している。個人情報の取り扱いも適切に管理している。また、勉強会等で職員の意識向上を図り、実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日常生活について、時間に追われない生活が実現できるように心がけている。利用者個々のペースや気持ちを尊重している。利用者で園芸が得意の方に無理のない形でネット作りやそれを活かした利用者同士の活動に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食準備から食後までの生活場面で、食材の準備、配膳、下膳、片付けについて個々の利用者の気持ち、状態を踏まえ、それぞれに役割があり、その中で利用者間もコミュニケーションが図られている。共にテーブルを囲み職員、利用者同士のとても良い雰囲気ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が利用者へ入浴のアナウンスを行い、曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と相談しながら一日の始まりの運動、将棋、マージャン、読書、調理、散歩や外食など様々な取り組みを行い、利用者の知恵、経験に添った内容で利用者同士の交流に配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるように、その日における利用者の気分や体調に合わせた支援(散歩、買い物、畑での作物の栽培等)を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入り口が交通量の多い道路に接しているため、玄関のドアは施錠をしているが、施錠については一時的にするものとしたいと考えている。	○	施錠をしないケアを行うよう検討しているが、十分な職員の確保が困難である。安全面に留意しながら、日中での鍵をかけないケアの実践を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの整備やマニュアルの実施、地域運営推進会議や年2回の消防訓練にて緊急災害訓練やヘルメットの整備、地元の消防団との係わりをもつ等働きかけを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、利用者個々の食事量、運動量、水分量に配慮している。食卓に並ぶ食材に合わせたお皿等彩りを兼ね備え、食欲をそそる工夫をしている。各階ごとでメニューを変えて対応している。食事、水分摂取について主治医と相談し連携している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダから直接、畑と行き来できるように整備している。居室には、見やすいようカレンダー、時計を設置し、利用者が座りやすいソファを廊下に整備している。共有スペースに畳の部屋があり、空気や気分転換を図れるよう、工夫している。日差しができるだけ差し込むような構造となっているため、隣近所との問題で窓を開けない部分があるが、電気や外気を別な手段で取り入れて工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の気持ちを大切に考え、家族と撮影した写真等が居室に飾られていたり、使い慣れた家具など用いたり居心地良く過ごせるよう工夫している。廊下には、利用者の作品や外出した際の写真を飾っている。		